

指導教諭 K.M

11月10日(金)午後3時30分、今年を受講生178名と、当日の聴講希望者50名(生徒25名、保護者25名)の計238名を対象に特別講演会「EUがあなたの学校にやってくる」を開催しました。趣旨は「EU(欧州連合)加盟国の在日大使館および駐日EU代表部の大使や外交官から直接話を聞くことで、欧州連合(EU)や日・EU関係についての理解を深める」としました。また同時に生徒の積極的な発言を奨励する、英語イメージ教育実践の中での自らの英語処理能力の到達度を測る場ともなりました。

当日お招きをしたのはドイツ連邦共和国大使館マリー=テレーズ・シュトラウス(Ms. Marie-Theres Strauss)一等書記官で「欧州統合とドイツ」という演題の下、1. EUとは、2. 世界の中のEU、3. EUと日本、4. ドイツと日本、の4つの観点からお話をいただきました。特にEUの3つの主要原則「i) 対立ではなく協力 ii) 国境のない暮らし iii) 問題はいつも共同」のなかで、グローバルな課題解決への取り組みとして「開発援助:EUは世界の開発援助の6割を担っている」「提供温暖化防止:地球の温暖化を2℃未満に抑える世界的な行動計画」「難民・移民問題:人の命を救い域外国境を守る」の3つを挙げられ、それぞれに熱く語っていただきました。

その熱い語り口に感化されたのか、質疑応答の時間は講師と生徒が“INTERACTIVE”な状態になったのはとてもうれしいことでした。校長先生からは「生徒たちを本当に頼もしく思いました。講演後の質問タイムです。ああいう雰囲気はあまり見たことがない。何が彼ら彼女らに火をつけたのか要素はいくつかあると思いますが、あの姿と雰囲気を200名以上の生徒が共有したことには大切な意味があると思います。次回は自分が…と思った生徒が少なからずいたと感じました。いい時間でした。」と、教頭先生も「質問タイムは生徒の「凄さ」と「高校生らしいかわいらしさ」が見えた素晴らしい時間だったと思います。終了後、校長室で、シュトラウスさんも興奮気味に「生徒たちが素晴らしかった」「女子生徒も臆せずどんどん質問してくれたことがうれしかった」と語っていただきました。」との感想をいただきました。11月13日にはシュトラウス一等書記官からも来年も是非北野にお邪魔したいとのメールが私の元に届きました。

学内留学特別講演会の第一回は成功裏に終わったと思います。来年度以降もこの「本物に触れる」取組は是非継続実施をしたいものです。



### 生徒感想文

「EUの講演会を聞いて」

1年4組31番 N.Y

EUのことについては中学校などで少し習ったことがありましたが、詳しくはよく知りませんでした。この講演会はEUのことに興味を持つきっかけになりました。

私は今までEUはヨーロッパの利益のためだけに活動していると思っていました。実際はヨーロッパだけでなく、貧しい国へ援助していたり、地球温暖化を防ぐ活動をしたりするなど、世界全体のために活動していることを始めて知りました。世界のどの国よりも多くの人道援助や開発援助を実施しているそうです。またEUは、民主主義国家どうしが共通の利益のため経済的、政治的資源を共有していくにはどうすればよいかを示しており、世界の地域にとってひとつのモデルになっています。

EUの政策の中でもEU加盟国の間には国境がないということがとても良いなと思いました。パスポートがなくてもいろんな国に行け、また単一通貨であるユーロが使われているので両替なしで買い物もできます。どの加盟国にも自由に住め、働けるなんて選択肢が広がり素敵だと感じました。簡単にほかの国の大学に進学できるということが私にとって魅力的でした。大学、という点で一番驚いた

ことは「ドイツの大学は授業料が無料」ということです。英語で授業が行われている大学も多いと聞きとても興味深かったです。私は英語が使われている国に留学したいと考えていて今まではアメリカやオーストラリアに行きたいと思いヨーロッパという選択肢がなかったのですが、これを聞きドイツもいいなと思うようになりました。

この講演会を聞いてEUのことだけでなく、日本とヨーロッパとの繋がりについても学ぶことができました。ヨーロッパで今起きていることや死刑制度の質問にも丁寧に答えてくれたのでわかりやすく、楽しく聞くことができました。EUやヨーロッパに興味を沸かしたのもっと自分で調べてみたいと思います。とても貴重な体験ができてよかったです。

#### 「EU講演会を通して感じたこと」

1年4組19番 K.K

私が講演会を聞いて最も驚いたのは、EUの目的だ。私はEUという組織はなんとなく世界平和を目標としているのかなと思い描いていたが、組織としてヨーロッパ全体の利益を目指しているとはじめて知った。もちろんその利益に平和も含まれていると思うが、利益をより優先していることは少し残念だ。なぜなら、イギリスのように自国の利益を求めてEUを脱退する国が他にも出てくるかもしれないからだ。存在感のあったイギリスを欠く今、脱退する国が増えないように、そしてイギリスが戻って来たいくなるように、EUが変わってくれたらいいなと思う。

私は、講演会の後、死刑制度について質問した。彼女は、死刑制度を導入すると、死刑を通して殺人をすることになり、犯罪者と同じになってしまうから、EUで死刑を推奨していないとおっしゃった。また、日本には死刑制度が存在するのに、依然として犯罪が起こるのだから、死刑制度は抑止力になっていないとおっしゃっていた。確かにそれは正しい。しかし、まだ納得できていないところも残っている。今、日本が死刑制度を廃止すれば、それは犯罪に対する刑罰を緩めることを意味すると思う。今までなら死刑になるような犯罪において、死刑がなくなると、被告人を死刑にできないため、遺族や被害者は憤ると思う。「罪を憎んで人を憎まず」と言ったりするが、もし自分の愛する家族を失ったときに、多くの方は、そのような悠長なことは思ったりしない。その点で、今よりも過激な刑罰をとまでは言わないが、今よりも刑罰を軽くするべきではないと思う。

私がEUについて特に関心を寄せていることは、EUの国々では、EU加盟国以外の国からの留学生に対しても授業料が免除されるということだ。私は、これからの将来を担う若者の教育を充実させるのはすばらしいと思う。グローバル化が進む今日、英語は必須。日本でも英語教育は重視されている。それなのに、なぜか日本人はあまり英語が得意ではない。一般的に日本人はまじめすぎるあまり失敗を恐れ、英会話に消極的になりがちなのが原因らしい。私は、将来必要とされる英会話のスキルを磨くには、現地のノリや文法を無視した表現などに慣れることが一番だと思う。そのためには、日本の大学で細かい英文法や使用機会の少ない英単語をたたきこむことよりも、海外の大学に留学して現地での生活を通して英会話を学ぶほうがずっとよいと思う。留学を応援するEUのこの取り組みは、日本も取り入れるべきではないかと思う。

講演全体を通して、私は、EUの取り組みなどが以前より身近に感じられるようになった。世界が抱える多くの問題などにも他力本願にならず、自分は問題解決のために何ができるのか、もっと考えなければならぬと思った。

#### 「EU講演で私が学んだこと」

1年9組12番 S.H

「EUがあなたの学校にやってくる」私が初めてこの講演の申込用紙を受け取ったとき、私のEUについての知識はほぼないに等しかったといえる。知っていることといえば、EUでは共通通貨としてユーロを使用しており、EUの前段階としてECやEECがあった、ということくらいであり、受験勉強のときの記憶なので半ばろう覚えだった。そのため、私はEUへの関心もあまりなかった。

講演一週間前のある日、講演の予習としてEUについてのパンフレットが配られた。講演のために予習がいるのか！ということにも驚いたが、そのパンフレットが英語であることにはもっと驚いた。しかも、結構面白い。私は自分がEUについて無知であったことを思い知らされた。たとえば、ユーロ硬貨は一つの面は共通だが、もう一つの面は発行国独自のデザインらしい。集めてみるのも楽しそうだ。パンフレットを読むにつれ、EUへの知識も深まり、講演が楽しみになっていった。

そして、EUは北野にやってきた。講演はまず英語、その後に通訳の方の日本語という形式で行われた。講師のマリー・シュトラウス先生の英語はやや速く、聞き取るのが難しいことも多々あったが、通訳の方の日本語を聞きながらだったので、十分講演を楽しめた。講演で特に私が印象に残っていることが二つある。一つはEUと日本、特にドイツと日本の関係についてと、講演最後の質疑応答だ。EUと日本は貿易などを通じて深く結びついており、現在、経済連携協定の締結も進むなど互いへの関心も大きいといえる。ドイツでは、学費無償などの理由から、ドイツの大学に留学する日本人も増えているそうだ。私は以前から少し留学への興味があるため、とても魅力的だと思った。質疑応答では様々な質問が挙がり、どの質問もどの回答も勉強になったが、私は特に「死刑制度」についての質問が印象的だった。EUには死刑制度がない。そのため、EUではどんな重い罪を犯した犯罪者でも法により命を奪われるということはあるにないのだ。これに対し、「死刑制度がある方が犯罪の防止につながると思う。何故死刑制度を取り入れないのか。」という質問が出た。それに対し、「犯罪者を死刑で罰することで何か状況は改善し得るのだろうか。犯罪防止につながるかどうかはわからない。」という回答が返ってきた。非常に難しい問題で、何が正解とは一概には言えないが、「死刑制度」について様々な意見があり、EUという大きな枠組みで死刑制度を取り入れていないことを知り、とても驚いたと同時に死刑制度を取り入れている日本でも考えなければならぬ問題だと思った。

「EUがあなたの学校にやってくる」今回の講演を通して、EUと私の距離はグッと縮まった。EUというと、遠い外国のことに思え

てしまうが、その距離は案外私たちが思うほど遠くはないのかもしれない。まずは興味を持ち、触れてみる。それが何より大事だと思った。

「EU講演会を終えて感じたこと」

1年9組37番 Y.H

今回の講演会は、英語に触れ、EUについての、知識を深めることができた、まさに一石二鳥の体験でした。

まず、事前学習について。講演会の数日前に、EUについての解説資料を配布していただきました。なんとその冊子は英語で書かれており、なかなかそれに手を伸ばすことができずにいました。(笑)しかし、実際に読み始めてみると、想像していたほど難しい単語や構文は使われておらず、英語の授業でも行っている多読感覚でスラスラと読むことができました。冊子の後ろには和訳もついていたので、わからない部分を照らし合わせたり、自分の解釈が合っているのか確認することができ、大変有効に使えました。また、自分が持っているEUについての知識が出てくると「この英文はEUのあの仕組みを言っているんだな!」とぴったりはまるることがあり、さらに読むことが楽しくなりました。

講演は、ドイツ大使館よりいらっしゃった現役バリバリの女性外交官の方が行ってくださいました。プレゼンテーションを用いて英語での説明の後、通訳の方が日本語に訳す、という流れです。5時間ぶっ通しで英語100%の学内留学本編と違うのは、やはり通訳があったことでしょう。学内留学では、講師の先生は生徒が理解できるようある程度の配慮をしてくださります。例えばゆっくり喋ってくださったり、簡単な言葉で言い換えてくださったり。今回はそのようなことはほとんどありません。生の英語との勝負です。先生のおっしゃることを正確に聞き取り、即座に日本語に訳す、通訳を聞いてその自分の理解があっていたかを確認するという、スピード精神力が必要な時間でした。ふっと気を抜くと、後の日本語訳を頼りにしてしまうので、気を抜かずに英語を聞き取ろうとする集中力。また一語一語英語から日本語に訳してはとても追いつかないので、英語を英語のまま、文章のまま理解するリスニング力。特にこの二つの能力は非常に鍛えられたと思います。

日本語訳をすぐに聞いたのは、英語学習においても大変効率的な方法だったのではないかと思います。まず、単語の習得に効果的です。訳を聞いて答え合わせができるので、間違っただけでなく、全く訳を聞いたことがなかった単語の意味も掴むことができます。体感として、そうして学んだ単語は普段より身に沁みついているように思います。次に、構文の使い方に気づくことができます。通訳によって話の流れを深く理解できるので、どんな時にその言い回し・構文を使いたいのかを学ぶことができたと思います。

英語力の向上だけではもちろんありません。講演を通して、EUについての意識がガラリと変わり、更に興味が湧きました。例えば、EUが世界中で様々な形の支援をしていたことを、以前まで私は知りませんでした。現役の外交官の方を間近で見られたことも人生に残る貴重な経験だと感じています。

これからの課題は、英語での発表力だと感じました。学内留学や学校での授業を通して、英語を聞き取り理解する力や、ワークブックの文法問題に答える力は鍛えてきましたが、自分の考えをまとめ、英語で即興で表現する力がまだまだ足りていないと痛感しました。世界中の人とこれから関わっていくために、この力をもっと伸ばしたいと思いました。

最後になりましたが、大変貴重で有意義な講演をしてくださったドイツ大使館のみなさま、この機会を用意してくださった先生方、本当にありがとうございました。